

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	ほどがや市民活動センター アワーズ			
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 横浜市民アクト		
	行政	横浜市		
事業の目的	市民活動及び生涯学習の支援をとおして、市民の理解と参画のもとに、市民一人ひとりが豊かに暮らせる地域社会の実現を目指す。			
事業の内容	(1) 活動場所の提供 (2) 情報の提供 (3) 相談・コーディネート (4) 講習会・研修会などの自主事業 (5) その他市民活動及び生涯学習推進に必要な支援			
役割及び責任 分担等	協働契約書第8条の規定に基づき、次に掲げる役割を分担し、その役割についてそれぞれの責任で事業を行う。			
		事業項目	受託者の役割 ◎事業運営に関する情報共有 ◎定期的な共同会議の実施 ◎第三者（利用者・事業運営評議会等）の意見や提案についての協議・検討	
		委託者の役割		
		受託者・委託者が共に果たす役割	◎設備の管理、保守・点検 ◎設備管理に関する調整及び協力 ◎中・長期の施設運営計画の検討	
		施設及び設備の維持管理に関すること	◎設備の提供	◎施設利用方法等について受託者と協議し、方針を決定
	運営全般に関すること	場所提供	◎利用しやすい雰囲気、ルール作り	
		活動支援	市民・団体向け	◎課題解決に必要な行政情報等の提供 ◎把握した課題等を施設・事業運営へ反映するための方針決定
			区内施設向け	◎相談対応による市民ニーズや課題の把握 ◎把握した課題等の解決に向けた助力の提供（情報提供、適切な機関や人へのつなぎ、団体支援等） ◎地域コーディネートにおける相談窓口
	事業に関すること	事業全般	◎市民活動に関する情報を収集・整理・提供 ◎広報紙の発行 ◎ホームページの開設、運営	◎区広報紙面確保等、広報機会の協力 ◎行政情報等の提供 ◎事業運営への協力
		自主企画事業	◎活動入門事業の実施 ◎個人・団体同士の交流、ネットワーク構築事業の実施 ◎活動支援・人材育成につながる事業 ◎区民利用施設同士の交流・情報共有を図る事業	◎事業実施の支援 ◎関係機関との連絡調整 ◎ネットワーク構築及び推進に必要な情報提供
地域人材ボランティアバンク（街の学習応援隊）		◎登録者の管理 ◎区内活動団体、施設への紹介 ◎PR・交流の機会提供	◎事業運営への協力	
実施期間	令和5年4月1日から令和6年3月31日まで			

記入日	令和 6 年 3 月 27 日
記入者	<p>[団体等]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体等名： 特定非営利活動法人 横浜市民アクト ・記入責任者 氏名： 北川 有紀 連絡先： 045-334-6306
	<p>[行政]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部署名： 保土ヶ谷区地域振興課 ・記入責任者 氏名： 金子 強 連絡先： 045-334-6308

2 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	C	C
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	C
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	B	B
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	B	B
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	B
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	B
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	C	B
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	B	B
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	C
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	C	C
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	B	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	B
4	期待された事業成果を得られることができたか。	B	B

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり (協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・委託仕様書等の記載事項（主に修繕や応援隊事業）について議論が進み、認識の違いや今後の見直しに向けた課題を共有することができた。・本年度の「ほどがや会議」は共催に至らなかったが、事業や委託内容について、市民局や教育委員会の方を交え議論を深めるプロセスを経て最終判断を下すことができ、これも協議を重ねられた結果だと捉えられる。・評価、振り返りがしやすいよう事業計画書に最終目標や単年度目標、具体的な事業内容に対する成果を記載するよう整理した。・評議会ですた意見（応援隊事業、事業評価）に対する、認識の違いがあった。受け取り方の違いがわかった時点で委員に確認する必要があると感じた。
【今後改善が必要と思われること】 <ul style="list-style-type: none">・今年度のみ試験的に、区役所のアワーズ担当係が「契約・設備担当」と「事業担当」に二分する体制であったが、情報共有が困難であったので、連絡系統が明確であることが望ましい。・仕様書等記載事項の議論は進んだが、今後は具体的な見直しと改訂を進めたい。特に修繕の増加や物価高騰に合わせた予算及び運営要項の見直しや、リスク負担に関する協議が進むことを期待する。・事業計画書の早期作成と目標の数値化が必要と考える。・自主事業を計画する段階で、発展的解消を目指した終了年度の設定が必要。・活動団体の発信力やマネジメント力など団体の基盤強化を図ることを指標とする取組が必要。
事業実施 (協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)
【共有できたことや認識に違いがあったこと】 <ul style="list-style-type: none">・長年問題となっていた建物の傾斜について担当係に相談したところ、業者との調整を図っていただき、現地調査が実施された。・区役所主催の施設間連携講座等に参加することで、他施設や地域の現状を共有することができた。・「ほどがやサンタプロジェクト」では、当日区長にお越しいただき現場の様子をお伝えできた。・応援隊事業に関して各区の状況や課題を共有することができたが、本来の事業の在り方に認識の違いがあった。・通常業務として行う団体の伴走支援の範囲について、認識の違いがあった。

【今後改善が必要と思われること】

- ・近年修繕費が膨らんでおり、今後に向けた仕様及び予算の見直しについての要望書を提出したが、回答が得られなかった。書面による要望や意見については、書面で回答をいただきたい。
- ・今年度「生涯学習まなぶんフォーラム」事業が終了したこともあり、活動団体や区役所との協働事業が減ったため、次年度以降は日常的なコミュニケーションを増やす機会づくりが必要だと感じる。
- ・区が実施する人材育成・発掘事業に関して、活動を始めようとする際や始めた際に相談にくることを考えると、参加者の人となりは事前に把握していたほうが良いと思うため、参加していただきたい。
- ・新規事業を企画・運営するにあたっては組織としてきちんと事業化することが必要。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- ・保土ヶ谷区社会福祉協議会との合同で「区民まつり」、YADOKARI(株)との連携をきっかけに「星天フェス(区役所主催)」へ出店する形で、これまでになかった区役所事業に幅広く参加することができた。
- ・資源化推進担当との連携で、今年度は資源選別センターと焼却工場の見学を行い、日頃の「定例おそうじ」等の参加者と共に資源循環の学びを深める機会を提供することができた。
- ・互いの事業を共有、広報をすることができ参加者増につなげることができた。
- ・事業を通して星天クレイや区社協などとの新しいネットワークができたのは成果だと思う。そのつながりをどのように活用するかを検討したい。

自由記入欄

- ・ここ数年間、保土ヶ谷区内でも学生が活動する事例が増えており、それらの活動をコーディネートしている各団体の大人同士の連携の必要性を感じており、次年度はネットワーク化を図りたい。
- ・年度末の評議会でもコメントがあったように、市民活動の事業価値のすべては数値化できないため、その価値や課題を“言語化できている”ことが重要であり、その観点で「評価」の再考をしたい。